

飛び込むことで道は開ける。 ダブルワークで最先端の新事業を展開。

古本 大生(株式会社ネクストビジョン)

会社概要

Webアプリケーションの開発からWebサイトのプランニング、スマートフォンのビジネス活用と、ITを利用した経営・業務改善を事業とする株式会社ネクストビジョン。副業や起業など、イントレプレナーを育てる自由な社風がある。



システム開発事業部
システムエンジニア

古本 大生 (43才)
DAIKI FURUMOTO

- 2016年 / 県立広島大学大学院経営管理研究科(HBMS)入学
- 2018年 / MBA取得。
仲間や教授とAbeille株式会社を起業。
- 2020年 / 中国地方を中心に、ドローン・ロボット関係の事業を展開・拡大。



ダブルワークのきっかけは、 社長に刺激を受けての大学院受験。

株式会社ネクストビジョンにシステムエンジニアとして勤務しながら、ドローン空撮やロボット関連、最新テクノロジーについての教育などを行うIT企業・Abeille(アベユ)株式会社の代表取締役をつとめる古本大生氏。昨今話題にあがることも多いいわゆる「ダブルワーク」を成功させている企業人であり、起業人である。古本氏が県立広島大学大学院経営管理研究科(HBMS)でMBAを取得したのは、2018年。システムエンジニアとMBAという組み合わせは意外な感じもするが、そもそもMBAに興味を持ったのは、勤務する株式会社ネクストビジョンの社長、有馬猛夫氏がきっかけだったという。「社長は、IT系専門学校の講師だった30代の頃に、まだ黎明期だったウェブアプリケーションに可能性を感じて起業

されたそうです。『何かをやりたい』と漠然と思っていた僕でしたが、講師から経営者への転身という社長のチャレンジストーリーに感銘を受けたと同時に、『経営とは』『起業とは』と向学心を刺激されました。」

MBAに興味を持った古本氏がオンラインや通信教育を検討していた際飛び込んできたのがHBMS創立のニュースだった。喜び勇んで受験したものの一度目は残念ながら不合格。2度目の受験では論文対策を万全に行い、無事入学の切符を手にした。挑戦のきっかけとなった有馬社長も「特に驚くこともなく、いつものように応援してくれました」と、社員の新たなチャレンジを応援する同社の自由な社風の中で、大学院生活をスタートさせることとなった。

大学院入学とドローンとの 出会いが人生の転機に。

「もともと新しいものや変なものが好きで、面白いものを見つけたら関わらずにはいられない」と自身を「好奇心とチャレンジ精神が旺盛なタイプ」と分析する古本氏。そんな彼が当時夢中になっていたのが黎明期のドローンだった。同時期に重なった大学院入学とドローンとの出会い。このふたつのファクターが、この後の人生を大きく形作ることとなる。

大学院での授業内容は「想像以上に苦行だった」と振り返ったが、多くの出会いや機会に恵まれた。ケースメソッドの授業で講師役を務めるうちに、担当教諭から学外での講師活動についてオファーをもらい、講師として新たな一歩を踏み出すように。また、大学院で出会った「ドローン仲間」とはすぐに意気投合。技術的・知識的研鑽をとともに深めるのと同時に、ドローンを活用した社会課題の解決法について語り合った。中山間地域の限界



集落や、海上交通の不便な離島は、輸送の問題と同時に、高齢化の課題も抱えている。「ドローンなら薬も運べるかもしれない」と輸送手段としての可能性を確信し、MBA取得後、仲間や教授とともに「ミツバチ」を意味するAbeilleを社名に起業。「仲間の存在がなかったら、起業にいたるところまでこぎつけなかったと思いますし、そもそもMBAの取得すらできなかったかもしれません。大学院入学というチャレンジで得た最たるものは、他でもない彼ら仲間たちなのです。」

「副業」だから踏み出せる、 これからの時代の新しい起業のカタチ。

現在は中小企業大学校でのドローンやロボット、VRなどの新興技術に関する講師活動や、世界的なロボットコンテストに挑戦するチームを編成・指導を行うなど、ドローンという枠組みを超え次々と新たなチャレンジをしている古本氏。現在は「これからの未来を背負う若い世代にこそ、実際に技術に触れる機会を持ってもらいたい」と、小中学生向けのロボット体験会も企画している。



意欲的に展開を広げているAbeilleだが、古本氏にとっても共に起業した仲間にとっても、新会社はダブルワークの「副業」の位置づけ。仕事はどうしても土日を中心とした限定的な形にならざるを得ない。しかし「『成果』という言葉を使うとまだまだですが、自分のアイデアと力で報酬を得るといのは、労働対価として与えられた給与からでは得られない満足感があります」と古本氏。「海外では、『ベーシックインカムがあったら起業する人が増える』という話があると聞いています。ぼくにとっては、ネクストビジョンでの仕事がベーシックインカムに当たるので、例え新事業で失敗したとしても、生活には影響しません。やってみたいことに注力できないというデメリットは確かにありますが、副業だからこそ安心して自分のペースで進められる。こういう起業や働き方もあるというのは、ぜひ多くの人に知っていただきたいですね。」

広島県未来チャレンジ資金ご利用希望の方へ

大学院を受験すると決めた瞬間から、広島県未来チャレンジ資金への応募、入学、MBAの取得、そしてダブルワークとしての起業と、次々といろいろなことに挑戦した数年でした。そこからぼくが最も実感したのは、「飛び込むことで道が開ける」ということです。やるかやらないかで迷うのであれば、間違いなくやってみた方が良いとぼくは思います。広島県未来チャレンジ資金の制度を利用すれば学費の大半をサポートしてもらえますし、大学院で学んだことを事業として活かしたいのなら、ぼくのように副業という選択肢だってある。「チャレンジ」に失敗は、無いと思います。